

第2回平戸度島住民検診における主な眼疾患の有病率とマイボーム腺機能不全の発症率
(37/40 文字)

ショートタイトル

眼疾患の有病率と MGD の発症率

Ocular Disease Prevalence and MGD Incidence in the 2025 Hirado-Takushima Study
(78/80 文字)

○有田玲子^{1,2}、福岡詩麻^{1,3}、白川理香^{1,4}、海道美奈子^{1,5}、前原紘基^{1,6}、須磨崎さやか^{1,7}、川島素子^{1,8}、高木健一^{1,9}、宮崎千歌^{1,10}、松村望^{1,11}、岩崎明美^{1,12}、大槻光伸^{1,13}、新見浩司^{1,13}、眞鍋洋一^{1,12}

- 1) LIME 研究会、2) 伊藤医院、3) 大宮はまだ眼科西口分院、4) 東都文京病院、
5) 和田眼科医院、6) 東京歯科大学市川総合病院（略語 東京歯大・市川）
7) 東邦大学医療センター大森病院（略語 東邦大大森）、
8) 久喜かわしま眼科、9) 高木眼科医院、
10) 兵庫県立尼崎総合医療センター、
11) 神奈川県立こども医療センター（略語 神奈川こども医療）、
12) 大多喜眼科、13) 新見眼科

LIME Working Group,

【目的】私たちは眼科診療所のない離島において、2017年に続き、6歳以上の全住民を対象とした2回目の眼科検診を実施した。今回の検診では、主な眼科疾患の有病率に加え、マイボーム腺機能不全（MGD）の有病率および発症率、さらに要眼科受診者数について調査した。

【方法】対象は長崎県平戸市度島町在住の6歳以上の全住民のうち同意を得られた者（未成年者は保護者の同意）。検診は、2025年3月28～30日に行った。視力・眼圧・前眼部・眼底を含む眼科一般検査に加え、涙液関連検査やOCTによる視神経・黄斑部の評価を実施した。さらに、同一集団をコホートとする再検診によるMGDでは世界初の疾患発症率も求め

た。

【結果】検診受診者は 259 名だった（受診率 66.1%）。6 歳未満の 2 名を除き、257 名を解析対象とした（男性：100 名、女性：157 名）。平均年齢は 60.1 ± 23.9 歳（6～94 歳）。主な眼疾患の有病率は、MGD 51.2%、ドライアイ 39.3%、アレルギー性結膜炎 25.4%、翼状片（術後含む）21.0%、涙道疾患疑い 13.8%、白内障 63.3%、白内障手術後 18.4%、緑内障疑い 16.3%、落屑症候群 5.2%、黄斑疾患 19.9%、網膜出血 1.6%だった。要眼科受診者は、55.1%だった。MGD の発症率は、前回検診以降 7 年 4 ヶ月の間で 57.7%であり、年間発症率は約 11.6%と推定された。

【結論】離島眼科検診の結果、主要な眼疾患の有病率が高く、特に MGD の有病率は約 5 割、発症率は約 11.6%/年と高率であることが明らかとなった。また、半数以上の受診者が要眼科受診と判定され、継続的な医療支援の重要性が浮き彫りとなった。